

学力向上に係る効果的事例

羽生市立羽生北小学校

1 はじめに

本校は、羽生市の中心を羽生南小と二分し、商店街・住宅地を有している。校庭東側を葛西用水が流れ、遠くに富士山、筑波山を眺めることができる。児童数は約380名、特別支援学級2クラスを含めた全16学級からなる中規模校である。

子どもたちは明るく素直であるが、自ら主体的、創造的に取り組む姿勢にやや欠ける。また、授業に一生懸命に取り組み、基礎的・基本的な知識や技能は概ね定着しているが、それらを活用して思考したり、表現したりする力に課題がある。そこで、学校研修課題は「思考力、判断力、表現力を高める学習指導法の研究」と位置付け、全校一丸となって授業の工夫改善をはじめとする教育活動に取り組んでいる。

学力向上対策として、授業の工夫改善や校内授業研究会等に取り組んでいるが、ここでは「児童の家庭学習の習慣化」と「児童のノート指導に係る取組」の二つに絞って事例を紹介する。

2 児童の家庭学習の習慣化をねらった取組

(1) マイマイ学習（家庭学習）の手引きの発行—自ら学ぶ子を目指して—

担任が課す宿題以外に自主的な学習を促すことを目的として、学習の手引きを年度当初に発行している。子どもたちの学習の習慣化、習熟、定着、自立もねらいとしている。保護者には、「家庭学習のさせ方」や「家庭学習の時間の目安」、「家庭学習における保護者の役割」等について手引きに示して配布するとともに、PTA総会でその趣旨について説明している。

特に「家庭学習、3つのポイント」として、□テレビ等を消して学習に集中させる □きれいな机の上で学習させる □よい姿勢で学習させることをお願いしている。

なお、マイマイ学習のマイマイとは、「毎毎（毎日）」、「マイマイ（かたつむり＝じっくりと時間をかけて）」、「MyMy（自分に合わせた学び）」の意味を込めている。

(2) 学力向上啓発通信の発行

学力向上が本校の緊要の課題であることから、昨年度より学力向上啓発通信を「協育で学力向上！」のタイトルのもとで、年間5号を発行している。

今年度の内容は次のとおりである。

第1号・・・学力の定義、家庭学習の内容と充実

第2号・・・家庭学習チェックシート、夏休みの学習

第3号・・・全国学力調査の分析と課題、授業の工夫改善

第4号・・・思考力、表現力を高める授業、読書の薦め

第5号・・・平成26年度学力向上策の総括、まとめテスト

（2月上旬に発行予定）



(3) マイマイ学習の実践

子どもたちは、マイマイ学習帳を1冊仕上げるごとに校長室に来て報告する。

その際、校長は「がんばり賞」を授与する。今年度



〔がんばり賞の授与〕

は、「がんばり賞」を8枚集めると特別表彰の対象として、各学期の終業式の時に表彰している。それを励みにしている児童も多い。課題としては、ノートの量を追及するために中身つまりは質が疎かになることである。そこで、2学期からは「ノート名人賞」の取組を始めることとした。

3 児童のノート指導に係る取組

(1) 授業でのノート作り

各学年、各教科によりノートの取り方や作り方がまちまちだと統一がとれず、しいては学力向上に結びつけることができない。そこで、「北小授業の約束」を作り、全職員で共通理解・共通行動をとっている。

具体的には、授業開始、終了時の挨拶の仕方や授業中の挙手、発言の仕方、声の大きさ等である。その中で、ノートについては「作り方」の約束に基づいて教師が指導している。例えば「課題は赤で囲む」、「まとめは青で囲む」等である。

(2) ノート名人賞の取組

前述したように、ノートの量だけでなく質も求める取組として導入したものである。マイマイ学習帳について、ノート作りの観点を示し、その内容により最優秀賞や優秀賞を授与することとした。また、最優秀賞の中から、特に素晴らしいノートを各学年1冊ずつ校長室前に展示し、他の子どもたちの参考となるようにした。よいノートを真似ることも大切だと考えたからである。



4 おわりに（成果と課題）

激しい社会の変化の形容として、知識基盤社会、高度情報社会、グローバル社会、少子高齢社会等様々な言葉が散見される。そのような社会に対応できる学力とは、学力の三要素が示す通り、基礎的・基本的な知識や技能の習得のみならず、それらを活用して思考力、判断力、表現力を育成することが求められている。また、自ら学ぶ態度の醸成も必要である。そのためには、学校の授業だけで子どもたちに十分に身に付けさせることは困難である。いかに家庭との連携を強化し、家庭において予習復習はもとより、主体的な自主学習を促すことができるかが重要である。

本校の取組の成果としては、宿題の他にマイマイ学習と称する自主学習が定着してきている。「がんばり賞」もたくさんの子どもの手渡すことができた。一方、保護者の協力が得られない家庭も多く、宿題もおぼつかない子どもも見られる。そのような子どもたちの学ぶ意欲の喚起や学力保障が課題である。

また、学力向上の根幹は日々の授業である。子どもたちが目を輝かせて「なぜ」「どうして」「知りたい」といった知的好奇心を揺さぶり、楽しく学び続けられるよう工夫改善を重ねていくことが我々教職員の使命である。そのことを肝に銘じて今後も学校研修課題に基づき、地道に研究を重ねていきたい。